

櫻紅葉命棧

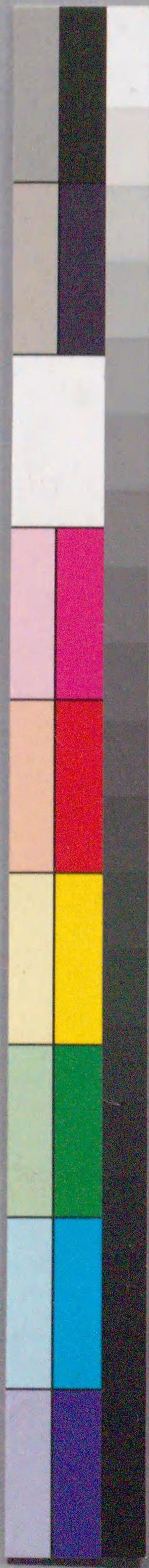
一名朝倉當吾物語

一弦齋琴考

207
947



ガラス使用



一名朝倉當吾物語
 櫻紅葉命棧
 一猛齋芳虎画

女と於六

上

国立国会図書館 桜紅葉命棧 4巻 207-947

ガラス使用



櫻

紅葉

命棧

上之卷

琴彦作

芳虎画

甘永堂

み庫



一席の講談も無本を称美し茶の

因西と論せび一帙の合巻の画組を

専ら善悪の終始を述ぶれば則

見ると聞との差別あり花の御山を

紅葉の傍のさくらさくらなる者客おつと

承知とてその其流行の敷き

倍々書店が得手小帆を擧て盡せぬ敷多の

製本繪様仕組を専市の主ふ代りて端書とる者ハ

嘉永六乙卯孟春

一弦亭琴彦述



書五









新田

小



新田











嘉永八乙卯新板目錄

地本草紙問屋 芝神明前 和泉屋市兵衛板

小栗十騎 照天松操月鹿毛
三編 春風亭柳枝作
四編 一雄齋國輝畫
五編

立齋廣重筆
 東海道弁次繪卷

風俗 淺間嶽 種久作
三編 四編 國貞畫

黃金水大盡盃
三編 四編
 為永春水作
歌川 國貞畫

女郎花五色石臺
榎下亭種員作
六編 七編 八編
 一雄齋國輝画

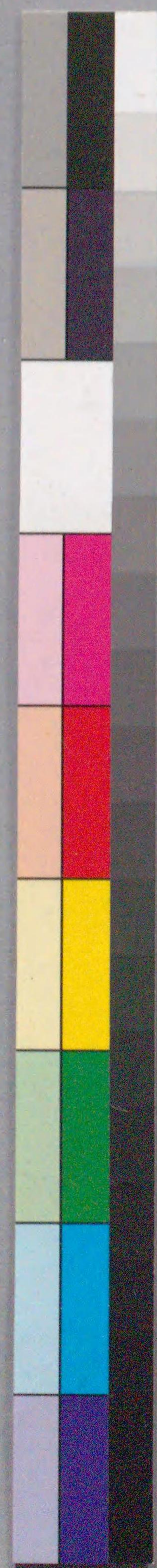
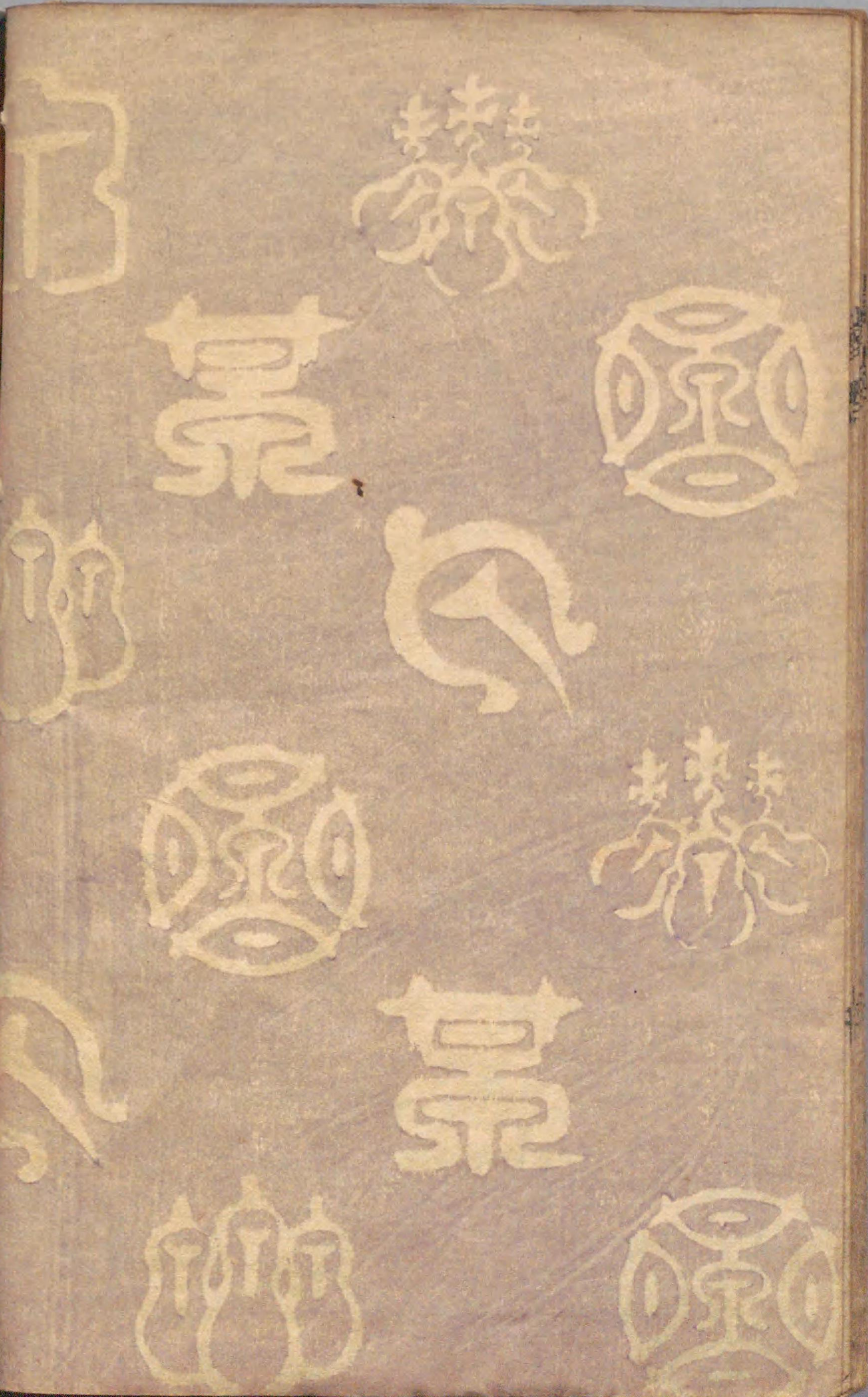
小女郎 缺心麻環
曲亭馬琴作
三編 大尾
 一勇齋國芳画

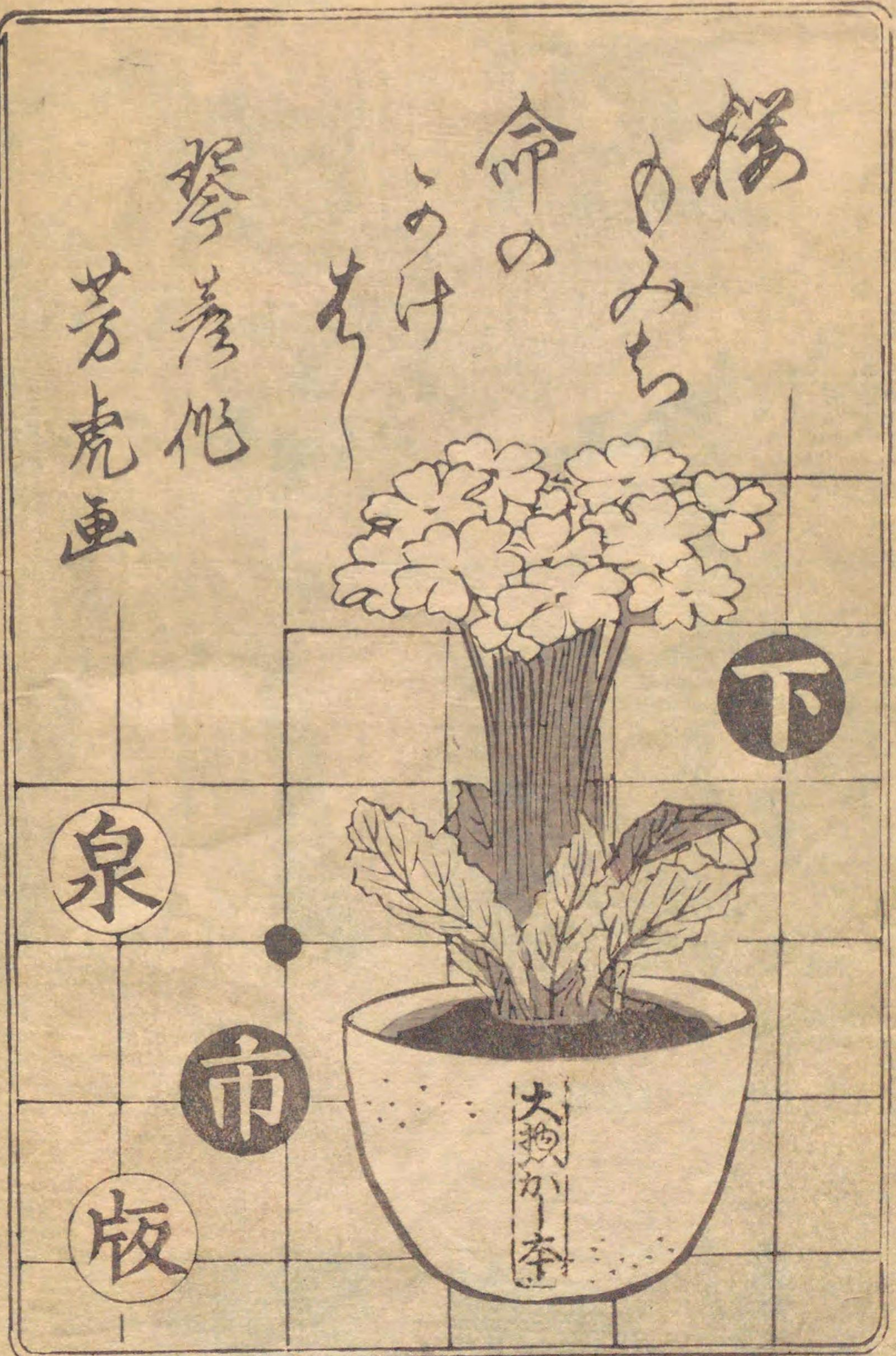
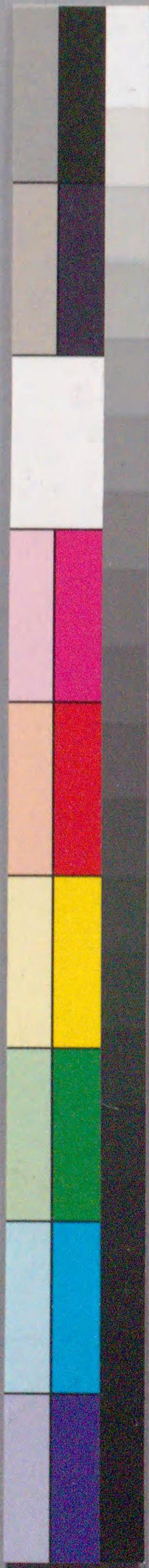


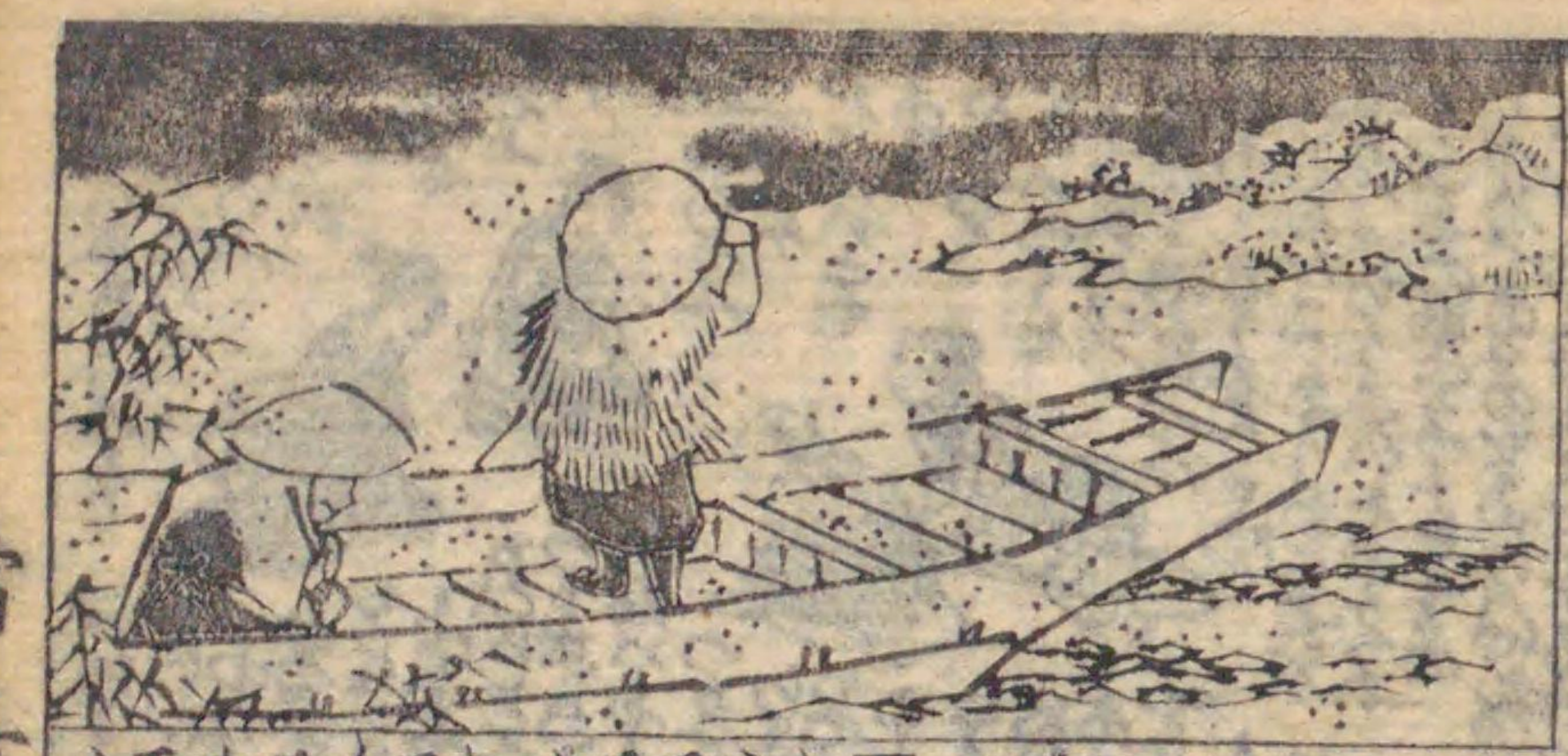


甘泉堂板

下







Handwritten text in the upper right corner of the left page, written in a vertical column. The characters are in a cursive style.



Handwritten text in the upper right corner of the right page, written in a vertical column. The characters are in a cursive style.





三十一

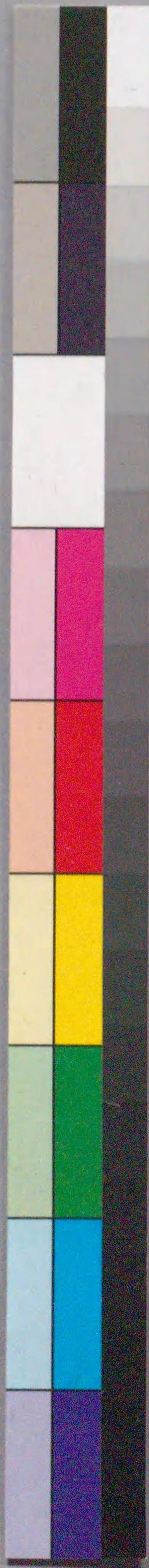
三十一

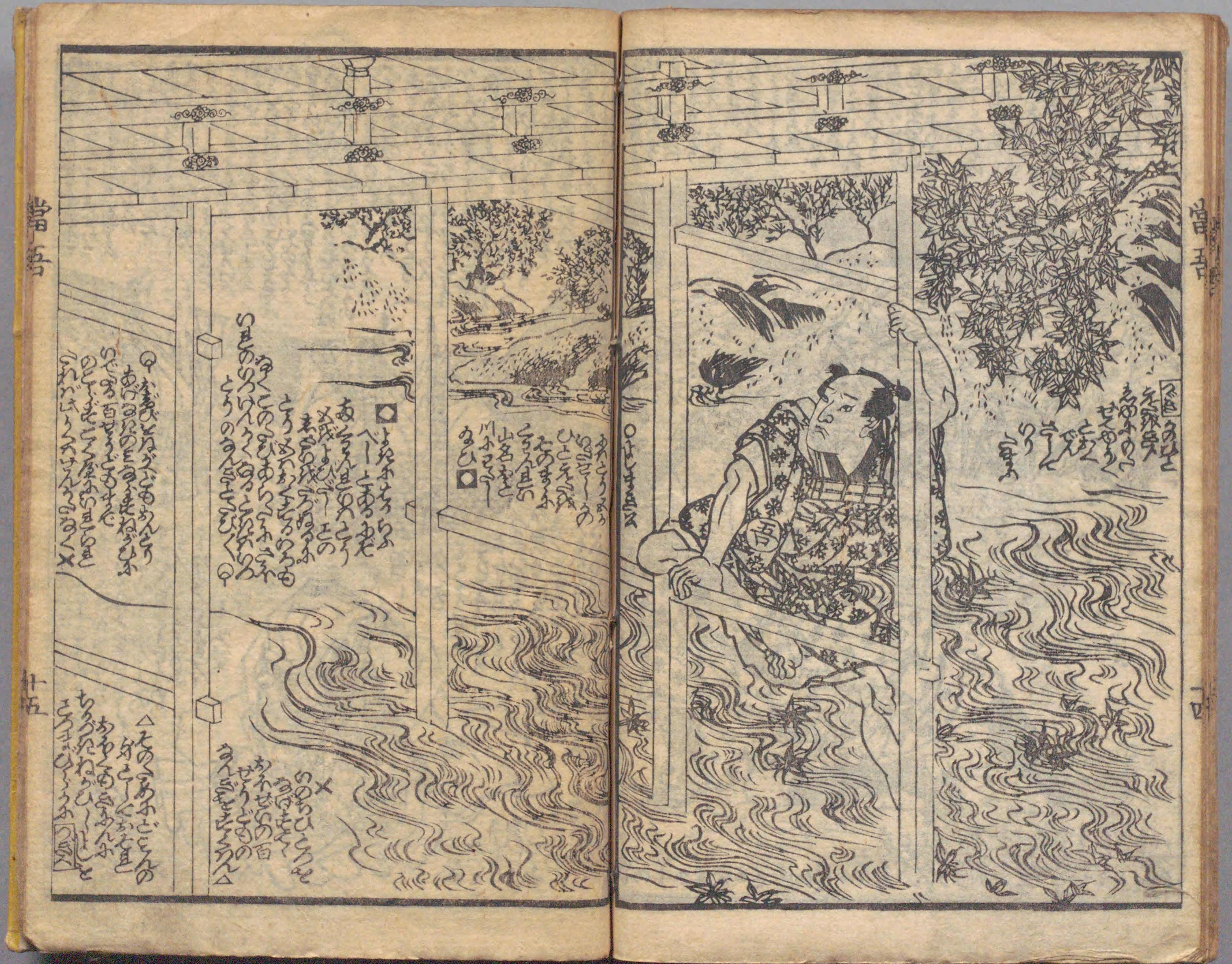
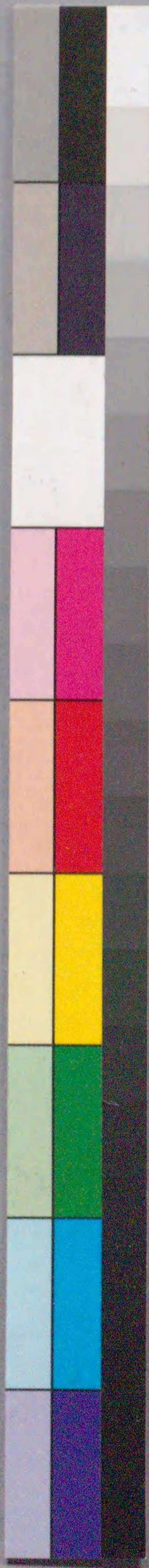


三十二

三十二







五十四

五十五

△本巻のついでにあらたに
あつたものもあつた
その百十のついでに
あつたものもあつた
その百十のついでに
あつたものもあつた

□ へいへいあつた
あつたものもあつた
その百十のついでに
あつたものもあつた
その百十のついでに
あつたものもあつた

山名を
川名を
かひ

〇

〇 〇 〇
〇 〇 〇
〇 〇 〇

十五

△ 〇のついでにあらたに
あつたものもあつた
その百十のついでに
あつたものもあつた
その百十のついでに
あつたものもあつた

X
〇のついでにあらたに
あつたものもあつた
その百十のついでに
あつたものもあつた
その百十のついでに
あつたものもあつた











琴彦録

芳虎画



兒雷也豪傑譚

廿廿廿廿
九八七六
編編編編

柳下亭種員作
一雄齋國輝画

假名一休草紙

七編八編九編
遠年書出り

柳下亭種員作
一雄齋國輝画

新編金瓶梅

種清編
豊國画
初編よりわびく、美ゆ、品物の外に、まゝあつた
後、四年のふね習わぬ、めと、お板仕、る、り、と、免
ひ、を、免、く、後、海、に、寄、希、上、小

新編金瓶梅
十編馬琴作
大尾豊國画

地本錦繪問屋
芝神明前
甘泉堂和泉屋市兵衛板

207
947



国立国会図書館 桜紅葉命棧 4巻 207-947

ガラス使用





国立国会図書館 桜紅葉命棧 4巻 207-947



ガラス使用

